

# 合気道部ロシア訪問 大学生らと合同稽古 文化交流も

合気道部の3年次生17人が9月8日から16日までロシアを訪問、合気道を通じて日露友好を深めたいと決意も新たにしました。

創部60周年(2017年)記念行事の一環。同部はもとロシアと縁が深く、同部師範代の堀越祐嗣さん(平5法)がロシア各地で合気道のセミナーを開いている。今回は外務省の外郭団体日露青年交流センターの派遣事業として、早稲田大、金沢大の4人を加え、サントペテルブルクとモスクワを訪問した。



モスクワ大学武道クラブのメンバーと

合同稽古で技を掛け合う

続いて訪れたモスクワでは、2年前に専大を訪れたモスクワ大学武道クラブのメンバーと再会を果たした。共に稽古に汗した人見優斗主将(法)は「ロシアの人たちにはとても熱心。同じ道志者として刺激を受けた」と話す。現地では日本領事館、日本大使館を訪問し、日露関係について話を聞いた。

「訪問先では皆フレンドリーで積極的に話しかけてくれた。ロシアについて理解が深まった」と笑顔。エルミタージュ美術館鑑賞やモスクワ音楽院がけたい」と誓う。

## 「子育てまつり」に参加 心理学専攻の院生13人

心理学専攻の院生13人

心理学専攻の院生13人は、チラシや写真などを切り張りするコラージュ体験と、「お兄さん・お姉さん」と遊ぶコーナーを担当。



院生が見守るなか、チラシを切り張りする子どもたち(コラージュ体験)

「子育てまつり」で院生は、チラシや写真などを切り張りするコラージュ体験と、「お兄さん・お姉さん」と遊ぶコーナーを担当。

「子育てまつり」で院生は、チラシや写真などを切り張りするコラージュ体験と、「お兄さん・お姉さん」と遊ぶコーナーを担当。

## 農業の大変さ実感 インターン参加 高根さん

インターン参加 高根さん



インターンシップで収穫作業に汗する高根さん

高根周樹さん(文3)は8月、農業インターンシップに参加した。5日間、群馬県伊勢崎市の農業法人で農作業を体験。朝5時半の朝礼から作業が始まる。20人近いスタッフが分担して夏野菜の収穫作業などに当たった。暑さと、慣れない作業が大変さを実感した。

## アナウンサーへの道支える 講座10周年記念しパーティー

講座10周年記念しパーティー

就職課のアナウンサー講座開設10周年を記念して、生田キャンパスでパーティーが開かれた。講師陣や現役の受入生、OB・OGらが講師の思い出話などに花を咲かせた。

若林健治さんが講師を務める。第一期生の上田まりえさん(平21文、元日本テレビ)はじめ、NHKやフジテレビ、地方の民放各局にアナウンサーを輩出している。

専修大学公式マスコット「センデイ」が、愛嬌あふれるLINEスタンプになりました！  
購買会を通じて、LINEクリエイターズマーケットで9月8日から販売。価格は1セット(40種類) 50「LINE」コイン(120円)。売り上げの一部は奨学金として活用されます。

「就職希望先に農業を、となると正直自分には厳しいと感じた。しかし興味はあるので次は酪農を体験してみたい」と日焼けした顔をほころばせる。

センデイ LINEスタンプ

外国語のススメ  
外国語教育研究室

— 50 —  
英語

佐久間 由梨 経営学部准教授

ミュージック・ビデオ(MV)は、英語や社会問題を学ぶのに最適です。たとえば、マイケル・ジャクソンの「Black or White」(1991)という楽曲には「It don't matter if you are black or white」(黒人か白人かどうかは問題ではない)という歌詞があります。MVには人種や民族が多様な人々がマイケルと一緒にダンスをし、人々がそれぞれの違いを超えて共生する世界の理想が表現されています。

ic or Asian or Native American or young or old or rich or poor, abled, disabled, gay or straight. You can make it here in America if you're willing to try.

「あなたが黒人でも白人でも、ヒスパニックでも、アジア系でも、ネイティブ・アメリカンでも、若者でも高齢者でも、裕福でも貧しくても、健常者でも障がいを持っていても、同性愛者でも異性愛者でも関係ありません。もしあなたが進んで挑戦するならば、ここアメリカでは成功することができるのです。」

オバマ大統領の言葉に、多様性と平等の理想を読み取ることは難しくはありません。でも、あくまでも「理想」で、「現実」とは程遠いと感じる人もいるでしょう。2010年代のMVには、いまだに続く差別や偏見の現実に応答するものが多くあります。人種、性別、性的志向、宗教、世代が異なっても、みな同じ人間だ。アメリカという多文化社会においては、日々このようなメッセージが音楽と映像を通じて発信されています。